

抗 SARS-CoV-2 S (spike) タンパク質抗体、 マウスモノクローナル抗体 (G2)

商品コード	65-103
容量	50 µg
保存	4°Cまたは-20°Cで送付、-20°Cで保存 凍結融解を避ける
濃度	1.0 mg/ml
バッファー	PBS- with 50 % glycerol
純度	Protein A で精製した IgG
抗原	SARS-CoV-2 S タンパク質内の RBD (receptor-binding domain)
アイソタイプ	マウス IgG1 k
反応性	SARS-CoV-2 S タンパク質の RBD に結合してウィルスを中和する。同様の E4 クローン抗体 (65-102) とのカクテルで更に相乗効果を示す。
特記事項	N/A
アプリケーション	1. 中和アッセイ その他のアプリケーションではテストしていない
背景	<p>新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は、2019 年末ごろに中国・武漢市で出現した新興ウイルスである。このウイルスは、感染・増殖を繰り返す過程で高頻度にゲノムに変異を引き起こし、これに伴い病原性が低下するとともに感受性細胞への感染効率は高くなり、免疫反応で排除しにくい形に変異した。実際、最初に出現した武漢株は、アルファ株、デルタ株、そして弱毒化が進んだオミクロン株 (BA.2、BA.5、BA.2.75) と呼ばれる変異株に変遷した。</p> <p>本マウスモノクローナル抗体 (G2 MAb) は、SARS-CoV-2 S タンパク質の receptor-binding domain (RBD) 領域を免疫原として樹立した。平行して得られた E4 MAb (65-102) は、武漢株、デルタ株、オミクロン 3 株のいずれに対しても同程度に強い反応性が認められる。一方の G2 MAb は武漢株にのみ反応性が認められる (免疫蛍光染色では、E4 MAb より反応性は弱い)。中和抗体活性も同様に、E4 MAb が強く、G2 MAb は弱い。これに対して、E4 MAb に G2 MAb が共存 (1:1) すると両者の中和活性の相乗的な上昇が認められた (図 1)。</p> <p>以上の特性から、本マウス MAb G2 は、S タンパク質 RBD 領域の中和エピトープを認識する E4 MAb の中和特性を補完する抗体をして使用でき、次々と変遷する SARS-CoV-2 の変異株の研究ツールとして有用である。</p>
Data Link	N/A
<p>※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。</p>	

Data Images: 65-103 抗 SARS-CoV-2 S (spike) タンパク質抗体、 マウスモノクローナル抗体 (G2)

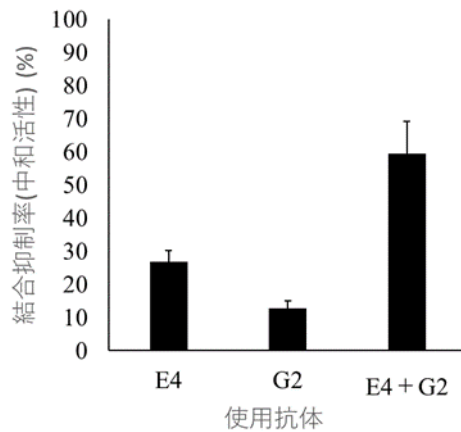


図 1. SARS-CoV-2 RBD と ACE2 (SARS-CoV-2 のレセプター分子)間の相互作用 (SARS-CoV-2 Neutralization Antibody Detection Kit (MBL, CODE 5360) を使用した。) の E4,G2,および E4 + G2 のそれぞれの MAbs による結合抑制活性 (中和活性)

関連商品:

65-102 抗 SARS-CoV-2 S (spike) タンパク質抗体、 マウスモノクローナル抗体 (E4)